

# 未来に向かって 一人ひとりが輝く北っ子！

## ◆ 出会いから学ぶ人権・心に響く言葉 ◆

### 「人の値打ちをはかるものさしはない」清原隆宣さん(西光寺住職)

12月5日(火)、校外人権学習として、6年生が奈良県の水平社博物館へ出かけました。「人の世に熟あれ、人間に光あれ」の水平社宣言が生まれた地での、フィールドワーク、水平社博物館の見学、そして、水平社宣言を作るにあたって中心となった西光万吉さんの生家、西光寺での講話と盛りだくさんな学びの1日でした。6年生は博物館を時間をかけてじっくり見学し、西光寺では、西光万吉さんの甥の息子にあたる清原隆宣さんから人権についてのお話を聞きました。以下は清原さんの講演の中からの抜粋です。

私たちはたまたま人間に生まれた。たまたまこの地に生まれた。サルから見て「人は人」、人から見て「サルはサル」。これは「自然のものさし」。人はサルを見て「どこのサルや?」とは言わない。人は人を見て「どこの人や?」と言う。人は「まちがったものさし」を作りやすい。例えば、「オレはあいつより上」のような、「人の値打ちをはかるものさし」はない。今も差別はある。SNS上で、またトイレの落書きなどで。水平社ができる前は差別が当たり前の世界だった。「人間は尊敬すべきもの」、これが水平社のものさし。あるがままにまるごと認め合う。人には名前がある。世界中どこにもない一つだけの花。今も見て見ぬふりをする大人は多い。「まちがったものさしを見抜く力」をつけて、人として誇りを持って胸を張って生きてほしい。



〈 水平社宣言記念碑前にて 〉  
フィールドワーク中です。



清原さんの話を西光寺の本堂  
で懸命にメモしています。

清原さんは、大病を患い半身に麻痺が残る中、熱意を持って「ものさし」のお話をしてくださいました。子ども達はその思いを受け止め、懸命にメモを取り聴き入っていました。自治振興会様のご協力により子ども達がこのような機会を得ることができましたこと、深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

### 「自分にできることはなにか」

パワーチェアフットボール(電動車椅子サッカー)チーム、「Red Eagles 兵庫」から4名の選手にきていただき、講演やワークショップを行いました。

10月にオーストラリアで開催されたワールドカップに出場された方も2名おられ、ルール説明の後、実際のゲームも見せていただきました。その後、縦割り班でPK対決やドリブルリレーをして、質問タイムになりました。子ども達は、電動車いすの操作のこと、毎日の仕事や生活のことなど質問攻めでした。中には舌で車いすを操作されている方もいらっしゃいました。その方が「自分にできることはなにかを常に探してやっている」とおっしゃられたのが印象的でした。子ども達の胸にもたくさんの言葉が残ったことと思います。

